

規を厳にして学位浄化を敢行，乗出した当局対策講究”，2 ページには“血脇と中原（一）両校長の特色とその校風”，3 ページは森田歯科の広告，4 ページは説苑で，向井嘉男の“学校歯科の体系”，5 ページは日本歯科商社の賀正と広告，6 ページは“向井嘉男の学校歯科医の心持”，喜多見行正の“金輪再禁の歯科的打診”，水口耕治の“養活”，7 ページは森田歯科の謹賀新年と広告，8～9 ページは高山紀斎ほか当時の一流歯科医の謹賀新春が掲載されている．10 ページは松風の広告，11 ページは国際歯科連盟根管治療法懸賞規定とライオン歯磨の広告，12 ページは臨時総会を開いて指定医等を制裁か，13 ページは自由放送，14 ページは有材歯科の広告，15 ページは“除外者の入会申込に感情衝突で一波乱”，“阪大医学部に歯科講座復活”のほか，大阪歯科医学専門学校，東京歯科医学専門学校，京北高等歯科医学校の学生募集の広告，16 ページ広告で占められている．

歯科医事新報は昭和6年12月9日第3種郵便認可，発行日毎月20日1回，発行兼編輯人栗原信四郎でその第二百七十一号，昭和7年5月20日号の1ページは“沈黙の雄弁，血脇氏の猛省を促す”，“学位令改正に文部省大乗り気，歯科医博の実現は今，イカサマ教科書，インチキ博士の取締も厳に”，“博士号授与に改正の意見，文部省調査を急ぐ”，また「人事往来」がある．2 ページは“第6回東北六県歯科医師大会”，“「バー」の微傷から敗血症，死去した唐木氏”，3 ページには“葉桜の水戸に茨城日歯校友大会，中原校長を迎えて，益々団結し躍進す”4 ページには中原先生の外遊詠草や山口白映生の欧米歯科界の印象，5 ページには“愛煙家への警鐘，葉巻や堅いパイプで煙草を吸うと口腔癌になる”，6 ページには社会歯科欄，歯科質問欄，7 ページには，学校ニュースで，日本歯科，日大歯科，東京高歯，東洋女歯などのニュースがのっている．8 ページは広告．なお，本紙は広告料14字詰1行50銭，特別の場合は御相談可申候とあり，各ページの下段はほとんど広告が占めている．本紙の購読料一部10銭，12ヶ月1円20銭とある．

なお，日本歯科新聞第百三十四号（昭和7年1月25日）に「大日本歯科新聞雑誌協会」加盟各社（いろは順）の社名が次の如く掲載されている．日本口腔衛生社，日本歯科学会雑誌，日本歯科新聞社，臨床歯科発行所，新歯科医報社，歯科医事新

報社，歯海公論社，歯科月報社，歯科時報社，歯苑社，昭和歯科評論社の11社である．

20) 60 年前の歯科学学生生活状況

The Condition of Dental Students 60 years ago

日本大学松戸歯学部 ○落合 俊輔
渋谷 鉦
石橋 肇
吉井 秀鑄
山口 秀紀
谷津 三雄

Shunsuke Ochiai, Koh Shibutani, Hajime Ishibashi, Hidetoshi Yoshii, Hidenori Yamaguchi and Mitsuo Yatsu, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

戦前に比べ戦後の大学生は歯科医学専門学校から歯科大学に，また，日本経済も目覚ましく発展を遂げ，飽食時代やマイカー族も増え，大学生の生活や環境も大きくさまがわりをした．そこで，今から約60年前の昭和10年に日本歯科医師会が後援し，社会歯科医学会が当時の歯科医学専門学校の在學生について調査した今田見信，今井信一執筆著「歯科医学専門学校生徒の生活環境並びに生活状態の調査」（社会歯科医学会雑誌第6巻第3，4号，昭和15年5月号）を参考資料として報告した．

調査内容は1．身上に関するものは(1)校別，(2)入学年度，(3)生年月日，(4)父兄の職業，(5)出身地，(6)家族，(7)現住所，(8)卒業後の方針，(9)信奉せる主義の世界観，2．生活様式に関するもの，(1)食事，(イ)朝食(校内，校外)，(ロ)昼食(校内，校外)，(ハ)夕食(校内，校外)，(2)住所(自宅，親戚，知人，下宿…)，(3)通学(省線，市電，バス，会社線，徒歩のみ)，(4)学業，(イ)講義外の主なる勉強場所，(ロ)講義外1日平均勉強時間，(ハ)加入せる学会研究会，(ニ)併集中の専門外の科目，(5)スポーツ，(イ)主な種類，(ロ)スポーツに費やす1日平均時間，(6)修養，(イ)方法，(ロ)加入せる修養会名，(ハ)最も崇拜せる人物，(7)趣味娯楽，(イ)種類，(ロ)加入せる社交関係会名，(8)社交，日常出入りする娯楽社交機関(喫茶店，碁将棋所，撞球所，麻雀，クラブ，其他)，(9)

嗜好, (イ)煙草, (ロ)酒類, (ロ)読書, (イ)愛読書の種類, (ロ)購読新聞名, (イ)購読雑誌名, (ロ)健康, (イ)保健方法, (ロ)宿病あらばその病名, (ロ)睡眠, (イ)起床時間, (ロ)睡眠時間, 3. 学資について, (1)収入, (イ)総額(月額), (ロ)家族より, (イ)育英会より, (ニ)他人より, (ハ)内職より, (2)支出, (イ)総額(月額), (ロ)授業料, (イ)実習材料費, (ニ)食費, (ハ)間代又は家賃, (ヘ)電燈又は炭代, (ト)通学費, (チ)書籍文具代, (リ)娯楽社交費, (ス)治療費薬価, (ニ)諸会費(研究, 修養, 運動, 其他), (ワ)諸経費からなっている. 参加した学校は日歯(現日本歯科大学), 日大, 高歯(現東京医科大学歯科大学), 京北(大宮にあった歯科医学校, 大正15年設立), 大阪(大阪歯科大学), 九歯(現九州歯科大学), 京城(現ソウル大学校歯科大学), 日女(旧日本女子歯科医専), 広女(大正2年に設立された広島女子歯科医学校)の計9校である. なお, 東京歯科医専と東洋女子歯科医専は参加していない.

調査の主な概要は次の如くである.

1. 父兄の職業は医師が最も多く, 無職, 農業, 歯科医師の順であった.
2. 卒業後は開業を希望するものが多く研究希望者は甚少ない.
3. 家族関係は両親あるものが70%を占め, 母のみあるもの15%, 父のみあるもの5%. また, 家族の順位をみると, 長男, 長女が最も多く41%, 2男女が18%で子女の教育が長男長女に主力が注がれている.
4. 登校中昼食する場所は校内で食事するものが総数の5.8%, 校外へ出て食事をするもの32.7%.
5. 生徒の宿所は自宅からの通学者が最も多く, 下宿, 親戚から通学するものが之に次いだ.
6. 講義外の勉強場所は自分の部屋77%, 図書館は23%.
7. 勉強時間は1日平均2時間55分.
8. スポーツに充当している時間は極めて乏しく, 従ってスポーツ時間は極めて短い. しかも室内スポーツにとどまる.
9. 修養状態は読書が多く, 16.3%である.
10. 崇拜する人物は西郷南洲が最も多く, 乃木大将, 東郷平八郎, 野口英世らが多い.
11. 趣味娯楽は音楽映画が大部分を占めている. 場所は喫茶店を筆頭に撞球所, 碁会所, 将棋所,

麻雀.

12. 酒を好む者は好まざる者より少なく, その比100対180である. 煙草は吸う者は吸わざる者より多く, その比100対63である.

13. 読むものは一般科学書, 文学書, 医学書が多く, 新聞は朝日, 日々(大毎を含む)の読者が絶対数を占め, 雑誌はキング, 文芸春秋, 中央公論が多い.

14. 保健方法は殆どが散歩.

15. 睡眠時間は8時間をとるものが最も多く7時間, 9時間が之に次ぐ.

16. 住んでいる畳数は平均1人当り6.2畳.

17. 学資は家族のみから得ているものが絶対多く, 補助を得ているものは極めて少ない. 1ヵ月40~50円が最も多い.

ちなみに昭和10年の値段をみるとアイスクリーム20銭, あんみつ13銭, 英和辞典2円50銭, 駅弁25銭, 江戸前寿司25銭, 大相撲の観覧料5円, カステラ1円~1円20銭, ガソリン12銭, カレーライス15~20銭, 銀行の初任給70円, 下宿料金30円, 公務員の初任給75円, 週刊誌13銭, 巡査の初任給45円, 小学校教員の初任給40~55円, 新聞購読料1円, 総合雑誌1円, そばもり10~13銭, 大学の受験料10円, 煙草8銭である.

21) 最初期歯科X線診断学の文献的研究 (第3報)

Bibliographical Studies on the Earliest
Period of X-ray Dental Diagnostics
(3rd Report)

東京歯科大学 森山 徳長
○塩津 二郎
亀谷 博昭
福本 裕
本間 孝

Norinaga Moriyama, Jiro Shiozu, Hiroaki
Kametani, Yutaka Fukumoto and Takashi
Honma, Tokyo Dental College

1. 口内法技術史

最初期の研究者たちの数多くの研究により, 撮影技術が体系づけられていった. 二等分法と平行法である. 二等分法については, 1904年のPrice